川崎簡易水道事業再編推進

事業採択を決定

市民が健康で文化的な生活を営む上で必要不可欠な水道。市は簡易水道事業の実施に当たり、採択前の事業を対象に事前評価を、採択後は5年ごとに再評価を行うこととしています。

このたび、所萩簡易水道の取水量減少などに対応するための川崎簡易水道再編推進事業を実施するに当たり、事前評価を行いました。その結果、▽所萩地区の取水量減少を川崎地区の水源で賄うこと▽隣接する東山町松川字地蔵平の一部などの水道未普及地域の解消を図ること―など、合理性があることから、事業を採択すると評価しました。

この評価について学識経験者など第三者からの意見を聞くため、簡易水道施設整備事業評価委員会(委員長・佐野茂一関工業高等専門学校教授)を12月22日、開催しました。各委員からは、「施設能力は十分な余裕があるのか」「良好な水源から給水することはよいこと」「水源が河川にある状況なので浄水施設建設は早く実施すべき」などの質問や意見が出され、最後に委員長が「川崎簡易水道事業の評価は妥当。事業に着手することに異議はない」と意見を集約しました。

これらの意見を踏まえ、事業の実施が決まりました。

評価結果と対応

【評価の結果】

1 新技術の活用…浄水方法として膜ろ過を計画。維持管理の容易性から採用する。

2 資源循環の促進…再生材の利活用と既存施設の有効利用で環境負荷の軽減に努める。

3 管理の見直し…施設の自動化・無人化により、効率化を図る。

4 費用対便益…簡易水道施設を建設、維持管理するとして算定した費用(C)は15億7300万円、所萩、地蔵平地区の井戸を建設、維持管理するとして算定した便益(B)は19億300万円で、費用便益比(B/C)は1・21。※1以上が有効とされている

5 費用縮減…▽施設管理の無人化・自動化▽汎用性の高い製品の利用―などにより、全体的な費用の縮減を図る。

6 代替案の検証…▽所萩地区の取水量の減少は、隣接する上水道、簡易水道施設からの給水を検討▽浄水方法は、緩速ろ過、急速ろ過、膜ろ過方式を比較検討し、妥当性を検証した。

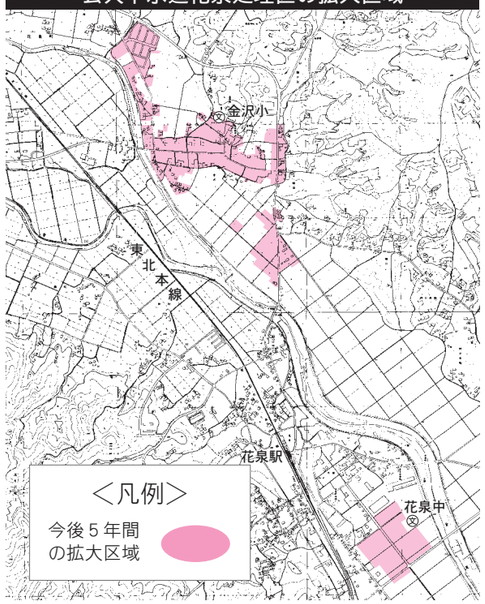
【結果に基づく対応】

事業を採択

簡易水道施設整備済み区域内にお住まいの皆さんは、積極的に簡易水道をご利用ください。

◎問い合わせ先
本庁簡易水道課工務係
☎㉑8572

公共下水道花泉処理区の拡大区域



下水道整備

【花泉処理区】の区域が拡大

市は自然と共生する住みよい環境づくりのため、公共下水道の整備を進めています。そのうち花泉処理区は、平成7年に供用開始し、17年度末現在104・1ヘクタールの整備が完了しています。

今回、新たに花泉地区の8・4ヘクタールと金沢地区の既成市街地27・7ヘクタール、合計36・1ヘクタールの区域を拡大し、おおむね5年間で整備する計画です。

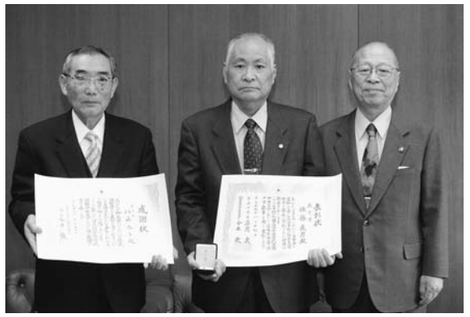
公共下水道が整備されると、該当地区では、各世帯で公共下水道に接続していただくことになります。今後住宅の新築・改築を計画する際は、下水道の使用を前提に計画するようお願いします。

また、公共下水道の整備地区の世帯には、下水道建設費の一部を受益者分担金として負担いただき、下水道を使用するようになると、流した汚水の量に応じて下水道使用料を納付していただくことになります。

工事を進めるに当たり、事前に関係する皆さんを対象に説明会を行います。詳しくは問い合わせください。

◎問い合わせ先
本庁下水道課管理係
花泉支所水道課 ☎㉒4930

長年の交通安全への功績に栄誉


ユニークな器材を使い交通安全の啓発に活躍する佐藤義男さん(中央)

佐藤義男さん(69)＝山目＝は警察庁長官、全日本交通安全協会長から交通栄誉章緑十字銀章を受章。1月19日市役所を訪れ、浅井市長に報告しました。

自動車整備業の仕事を通し交通事故の悲惨さを数多く目にした佐藤さんは「少しでも事故をなくしたい」と廃資材などを利用したユニークな各種の交通安全啓発器材を制作し、一関警察署管内での高齢者の交通安全教室や介護予防教室での出前講座などで活用。約90回延べ2700人の受講者に好評を博しています。「死亡事故を減らせるようできる限りのことをしたい」と抱負を語ります。

また、平成14年から一関地区地域交通安全活動推進委員協議会長を務めています。

沖縄への旅で見直したふるさと

サトウキビ刈りと裁断など、沖縄の産業を体験した参加者

県などが主催する「ふるさと発見!いわて少年交流体験セミナー」は昨年秋から1月にかけて行われ、県内から120人の児童・生徒が参加。昨年9月の県内研修、1月の沖縄研修で仲間の大切さやふるさと岩手の良さを見直す旅を体験し、大きく成長しました。

市内から参加したのは、吉田十穂君(萩荘小6年)、楠木崇仁君(涌津小同)、菊地由香理さん(猿沢小同)、千田美希さん(小梨小同)、佐藤恵造君(東山中2年)、伊東恵さん(室根中同)、千葉美紗さん(川崎中同)、千葉範子さん(大東高同)の8人。1月27日、県一関地区合同庁舎で行われた事後研修会で、「友達との出会いで成長できた」「沖縄の文化や歴史を学び、平和の大切さを実感した」などと感想を述べました。

遠藤ヱミ子さんが元気で100歳

敏さん(左後ろ)、ひ孫の葵ちゃん(5つ)、拓真君(3つ)と浅井市長に囲まれて祝福を受けるヱミ子さん

遠藤ヱミ子さん＝関が丘＝は1月20日、自宅で満100歳の誕生日を迎えました。家族や子、孫らが祝福する中、浅井市長から祝い品などを贈られたヱミ子さんは「皆さんのおかげで忘れられない日となりました。心から感謝いたします」とはっきりした口調で語りました。

ヱミ子さんは故晟さんと昭和12年に結婚。子7人、孫14人、ひ孫12人に恵まれ、現在は二男の敏さん(68)夫婦と3人暮らし。若いころは裁縫を教えていて、2年くらい前までは自分で縫い物や小物作りもしていました。現在も、好物の魚や卵料理をはじめ好き嫌いなく食べ、お経を毎日欠かさず唱えながら元気に生活しているそうです。

二高フェンシング部フランスへ

インターハイに数多く出場し、強豪として知られる一関二高フェンシング部

一関二高フェンシング部は、2月17日から9日間、フランス・グルノーブル市を訪れ、現地の高校生らとフェンシングを通した交流を行います。19年に創立100周年を迎える同校が記念事業として派遣するもので、部員のうち8人と引率教諭2人が渡仏します。フェンシングを通じた交流相手を探していたグルノーブル市から話を持ちかけられ、今回の交流が実現。10月には同市の選手が一関市を訪れる予定です。

選抜メンバーの東森友暉君(1年)と菅原佳奈子さん(同)は「先日大きな大会で負けたばかり。強豪国フランスで技術を学び、『捲土重来』を目標にしたい」「いろいろな体験をして部活と私生活の両面に生かしたい」と意欲を語ってくれました。